

第3回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年6月10日（月）

18時～19時30分

会場：篠ノ井総合交流センター

次第

1 開 会

2 県教育委員会挨拶

3 新懇話会構成員の自己紹介

4 会議事項

(1) 第2回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 講演「これからの高校を考える」

講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 藤村 裕一 氏

(3) 質疑応答及び意見交換

5 その他

次回の予定

【日時】 令和6年8月（予定）18時～19時30分

【場所】 千曲市（予定）

【内容】 グループ討議：新校の学びのイメージ（学校像・生徒像）

6 閉 会

長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名(○:座長)	所属等	役職等
1	自治体	西澤 雅樹	長野市	副市長
2		丸山 陽一	長野市	教育長
3		小川 修一	千曲市	市長
4		小松 信美	千曲市	教育長
5		塚田 常昭	坂城町	教育長
6	産業界	市川 伸一	J A グリーン長野総合企画部企画広報課	課長
7		福田 享士	株式会社システックス	常務取締役
8		矢島 隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
9		滝沢 秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
10	学識経験者	森下 孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
11		○藤本 光世	元県立高等学校長	
12	地域	坪井 俊文	長野地域振興局	局長
13		海野 忠一	長野市(篠ノ井地区)	
14		香山 篤美	長野市(松代地区)	
15		赤地 憲一	千曲市	
16	同窓会	越 正至	更級農業高校同窓会	同窓会長
17		細川 隆男	松代高校同窓会	同窓会長
18		赤塩 曜子	屋代南高校同窓会	同窓会長
19	PTA	小田切 勇	更級農業高校PTA	PTA会長
20		宮澤 洋介	松代高校PTA	PTA会長
21		山崎 みさ子	屋代南高校PTA	PTA会長
22		吉澤 多恵子	長野市PTA連合会	代表
23		唐木 文子	更埴PTA連合会	代表
24	小中学校等関係者	宮尾 昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
25		中野 禎仁	更埴校長会 戸倉上山田中学校	校長
26		倉島 さつき	稲荷山養護学校	校長
27	再編対象校	武田 拓斗	更級農業高校(生徒)	農業クラブ会長
28		武藤 穰	更級農業高校	校長
29		徳武 晃	更級農業高校	教諭
30		今川 千桜	松代高校(生徒)	商業科代表
31		向井 健太郎	松代高校	校長
32		宮林 正樹	松代高校	教諭
33		伊藤 七菜	屋代南高校(生徒)	ライフデザイン科代表
34		竹内 宏枝	屋代南高校	校長
35		肥田 尚音	屋代南高校	教諭

【事務局】

学校名	氏名(役職等)
更級農業高校	丸山 暢之(教頭) 徳武 晃 石澤 圭祐
松代高校	阿部 栄智(教頭) 宮林 正樹 坂本 成久
屋代南高校	櫻田 智也(教頭) 肥田 尚音 土屋 友紀子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	佐野 浩一郎	高校教育課 高校再編推進室	室長
	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	山崎 巖	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第2回 長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年4月25日(木) 18時00分～19時30分		
場所	千曲市役所 301 会議室		
出席 (敬称略)	西澤雅樹、小川修一、小松信美、塚田常昭、福田享士、矢島隆生、滝沢秀治、森下孟、藤本光世、坪井俊文、赤地憲一、越正至、細川隆男、赤塩曜子、小田切勇、宮澤洋介、山崎みさ子、吉澤多恵子、唐木文子、宮尾昭広、中野禎仁、倉島さつき、武田拓斗、武藤穰、徳武晃、今川千桜、向井健太郎、宮林正樹、伊藤七菜、竹内宏枝、肥田尚音 (以上 31 名)		
欠席 (敬称略)	丸山陽一、市川伸一、海野忠一、香山篤美 (以上 4 名)	傍聴者	35 名 (オンライン 4 名含む) 報道関係 5 社
事務局	更級農業高校	丸山教頭、徳武教諭、石澤教諭	
	松代高校	阿部教頭、宮林教諭、坂本教諭	
	屋代南高校	櫻田教頭、肥田教諭、土屋教諭	
当日資料	次第、構成員名簿、今後のスケジュール、講演資料、学校紹介資料		

会議事項

- (1) 第1回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめについて
- (2) 講演「総合技術高校における学びについて」講師：須坂創成高等学校 羽山功校長
- (3) 各校生徒による学校・学びの紹介
 - ①更級農業高等学校 ②松代高等学校 ③屋代南高等学校

講演会概要・質疑応答(要旨) (→回答)

【須坂創成高等学校 羽山校長の講演】

○学校概要

- ・「専門力と創造力を有する地域の産業の担い手を育成するため、産業教育の全てにふさわしい学校・学科を」というニーズから、須坂園芸高校、須坂商業高校を統合し 2015 年に開校した。
- ・学校は、須坂駅(長野電鉄)から徒歩 5 分ほどの位置にあり、長野市から多くの生徒が通学している。地元の須坂・上高井の生徒 39.5%に対して、長野市の生徒は 53.6%である。
- ・農業科 3 学科 7 コース、工業科(創造工学科) 2 コース、商業科 3 コースに分かれてそれぞれの専門的な学びに励んでいる。
- ・商業科では、会計コース 90 名、IT コース 9 名、マーケティングコース 16 名と大きな開きがあるが、人数調整等を行わず、生徒の進路に応じたコース選択をしている。
- ・工業科では、生徒全員がデュアルシステムで地元の企業に行っている。生徒が一生懸命取り組んでいるため企業側は須坂創成に良い印象を持っていて、工業科が学校の就職を引っ張ってくれている。地域のいろんな方々がバックアップして、応援組織を作り、受け入れていただいている。地域に支えられていることを実感している。
- ・進路指導においても、学校には工業の先生、商業の先生、農業の先生がいることで、違う学科の生徒をそれぞれの学科の専門の先生が指導できることが、ある意味統合技術のメリットである。

○学科連携

- ・1 年次では各科共通履修科目の「産業基礎」で地域のことを学び、2 年次には互いに乗り合わせしながら専門分野の協働的な学びをとおして専門性を身につけている。
- ・3 年次の「課題研究」を 3 科同じ曜日・時間帯に授業を行っている。1 つのテーマにそれぞれの学科の生徒がいて、3 学科の職員が担当している。
- ・通常の高校は他校に出向かなければ他科との連携を行うことができないが、総合技術高校であるため生徒や先生がその場にいることで効率よく連携や交流を行うことができている。
- ・須坂創成高校が開校時に校舎が完成していなかったため、年次統合であった。須坂園芸高校、須坂商業高校のそれぞれの校舎を使用していたため、学科連携は教員がそれぞれの場所に行って授業を行っていた。それでは、生徒同士の交流はなく、総合技術高校の意味は薄まってしまったと感じている。
- ・2019 年から教育課程の見直しを始めて、2022 年の新入生から他科の授業を互いに担当したり、乗り合わせの授業を行ったりするように教育課程を変えた。
- ・総合技術部会研究会(県内の総合技術高校 3 校の教員が年 1 回、互いの学校を視察、意見交換を行っている)の中で、飯田 O I D E 長姫高校では連携科目について「この学科では生徒にこういう力をつけたいので、こういう科目を設定してほしい」と生徒目線で科目を設定しているという説明があり、刺激を受けて教育課程が変わってきた。
- ・それぞれの専門学科だけでは学べなかったり、気づけないようなことが、連携することでのメリットであると考えている。
- ・「創成フェア」も 3 学科でやっている。そこにも森上小学校の生徒に来てもらって、売るところまで体験してもらっている。違う知識を持っている人たちが集まるから、いろいろなアイデアを出せるというのが、総合技術の強みである。
- ・資格取得も乗り合わせを行っている。自分の専門以外の資格取得も可能であるが、専門的な資格では乗り合わせができていないものもある。
- ・生徒は、地元で愛されているということを実感しているので、県外に進学しても地元に戻る生徒が多い。

○須坂新校の開校に向けて

- ・須坂創成高校と須坂東高校を統合し、須坂新校を令和11年度に開校する。須坂創成高校の敷地を使用することで決定している。
- ・現在は、両校で部活動や文化祭に相互に交流を進めてくことになっている。
- ・令和8年度ぐらいにはクラスマッチも一緒にできるように進めている。

○質疑応答

- ・2キャンパスや3キャンパスということを知りますが、須坂創成高校の形態はどのようなのか。また、新校ができた場合はどのような形が予想されるのか。
 - ・須坂創成高校は1キャンパスである。ある学校では2キャンパスであるが部活は1つであるのでバスで移動しなければならず大変であるとの話を聞く。
 - ・須坂創成高校の年次統合時には2キャンパスの形となっていた。弊害があったというのはお話しとおおり、2キャンパスであると生徒が普段の交流ができない、しにくいことから、須坂新校は1キャンパスと思っている。
- ・総合技術部会には3校あるということであったが、総合学科部会というものもあるのか。あるとすれば何校あるのか。
 - ・校長会の中に総合技術部会があり、総合技術高校3校と農業、工業、商業、家庭福祉の部会長で会議を行っている。同様に総合学科高校6校の総合学科部会がある。

【各校生徒による学校・学びの紹介】

①更級農業高等学校

- ・生産流通科（生産技術コース・流通経済コース）では、主要作物の栽培方法や日本農業の根幹である稲作生産を題材に農業生産技術について学習している。
- ・生物科学科（食品科学コース・環境科学コース）では、農産物を主原料とした食品製造技術や生活環境から地球環境まで幅広い分野の科学的分析や環境保全を学習している。
- ・グリーンライフ科（アグリネットワークコース・園芸デザインコース）では、農業がつながり様々な交流を広げ、活力のある農業を築くことや、様々な鉢物・草木の栽培に必要な知識や技術を学んでいる。
- ・施設園芸科（施設野菜コース・果樹科学コース）では、水耕・温室栽培、スマート農業の先端技術や果樹栽培の専門的な栽培方法を学習している。
- ・課題研究発表会では、学習や研究の成果を発表し、対話的な探究学習に取り組んでいる。

○質疑応答

- ・稲荷山養護学校との交流があれば、教えていただきたい。→・コースの中で交流している。

②松代高等学校

- ・「総合的な探究の時間」では、1年次に松代町について学びを深める「松代ブラ散歩」を実施している。松代の歴史や文化、魅力を掘り出す学びについて先生方がコーディネータとなり、地域の方々に講師としてご協力いただき、地域の資源（人・もの）を結びつけた学びを行っている。
- ・「課題研究」では、松代町商店街の活性化について研究している。ホームページなどを活用した広報活動に注目し、町内の商店街を取材し店の魅力や特色ある商品をWeb上で紹介する「マイマップ」を作成している。松代高校ホームページとリンクして商店街の活性化のお手伝いや、長年企業とコラボした開発商品販売から地元の休耕地を利用して、開発商品に必要な食材を育てる取組も始めた。後輩への研究を引き継げるような発表会を実施している。

○質疑応答

- ・地域と密着して学んでいることが分かった。生徒の皆さんにとって地元の街はどのような存在か、教えもりたい。
 - ・松代町に入った瞬間に景色が変わり、昔ながらの感じがして、非常にそれがいいと感じている。
 - ・松代の街のお店の方が、とても優しく、とても親切に接していただいている、街が大好きである。

③屋代南高等学校

- ・普通科、ライフデザイン科（ファッションデザインコース・フードデザインコース）がある。
- ・ファッションデザインコースでは、各種デザインコンテストへの参加や資格取得への積極的な取組をしている。
- ・大学や企業と連携した学習にも積極的で、課題研究や発表につながっている。
- ・フードデザインコースでは、様々なコンテストへ参加し長野県産の食材を用いたコンテストにおいて文部科学大臣賞を受賞するなど成果をあげている。
- ・専門的な技術は各分野のプロフェッショナル講師陣に指導していただき、高度な技術を習得するため一人ひとりが目標をもって学んでいる。

【その他・要望】

- ・各校の学びについての理解はできた。
- ・新校について質問を用意してきたができなかった。次回は、是非質問の時間を設けてほしい。

その他

【次回】

日時：令和6年6月10日（月）18時～19時30分
会場：篠ノ井総合交流センター 多目的ホール
内容：アドバイザーによる講演

第2回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会アンケートまとめ

1 講演を聞いてのご感想

<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校には工業科が必要だと感じた。工業科がないと総合技術高校として不十分になるおそれがある。特に農業科との学科連携に必要な不可欠ではないか。・校地の立地の良さ（交通の便の良さ）が生徒募集にかなり重要であると再確認できた。
<ul style="list-style-type: none">・農と工・商との学科連携のイメージは良く分かったが、家庭科特にライフデザインとの連携のイメージが湧かない。学科連携の重要さは分かる。・地域連携、デュアル研修の積み重ねが地域を愛する気持ちが醸成される。このことは新校でも必要な大事な視点である。
<ul style="list-style-type: none">・須坂創成高等学校の羽山校長先生のお話は、須坂東高校との統合を進める中、様々な課題がある中で、総合技術高校のメリットとデメリットをわかりやすく話してくださいました。・学科間の連携により、他学科の知識を学習し、より広い専門性を獲得することができることは、生徒の希望に即した進路実現につながると思います。入学の時点と高校生活を送る中とは、生徒の希望も変わることがあるため、それにも対応できるシステムだと思います。
<ul style="list-style-type: none">・伝えたいことが多くあったせいか、焦点がぼけた印象があった。
<ul style="list-style-type: none">・大変興味深く拝聴しました。ありがとうございました。 第一回懇話会の冒頭、宮澤室長より本件の対象は総合技術学校であって総合学科ではない旨の注意喚起がありました。これを受け小職なりにこの違いを理解するために総合学科校などで話を伺ってまいりました。それなりに理解したつもりでございましたが今回、羽山校長より須坂創成高校での学科を超えた柔軟な学びや進路の話をお伺いする中で違いがまたよく分からなくなりました。（2年生以降の取得科目決め方といったシステムの違いは理解しております。）更に普通科高校の須坂東高校との統合を控えているとのことでますます分からなくなりました。改めて宮澤様が本件の対象が総合学科ではなく総合技術高校であると念押しされた総合技術高校とはどのようなものであるのかをお教えてください。
<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校における学びについての羽山校長先生の講演は、須坂創成高等学校の設立からはじまり、現在の様子など、とても参考になりました。
<ul style="list-style-type: none">・須坂創成高校の教育課程の特長を理解することができました。生徒が学びたい内容に従って、他の学科や専門分野に跨いで学べることは大変素晴らしいです。それだけ先生方の専門性を高めることができると期待され、総合技術高校になることによるメリットは、教諭・生徒ともに大きな意義があると感じました。また、同校の良さはデュアルシステムにあり、幅広い実践的な学び、主体的に個別な学びに取り組めることにあると思われまます。千曲新校においても、探究的・創造的に個々が学ぶことにより、自分たちの可能性をさらに高め上げることができるのではないかと実感しました。校長先生のお話にもありましたとおり、教諭や生徒のみならず、総合技術高校になったことにより、自分たちの学びにどのような影響があったのか、単科ではないからこそどのようなメリットがあったのかを語っていただく機会があると良いのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none">・総合技術校の利点（例えば商業、工業と農業の連携）など分かりやすく腹落ちする具体例をあげた説明がよかった。関係者や生徒の理解が進むと感じた。・生徒目線で学びをコーディネートしていることも評価できる。・デュアルシステムを活用し地域の高校としている点も大変納得感があり、生徒自身にも可能性に挑戦する上で大変有効であると感じた。地域にも大いに受け入れられていると感じた。・隣の旧第3通学区から半数以上の生徒が来ている点も総合技術校の強みが認識されているものと思った。
<ul style="list-style-type: none">・須坂創成高校創立以来、10年の歴史をふまえて、実践事例をお聞きできて大変参考になりました。
<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校のメリットがわかりやすく説明していただき、理解できました。特に、新校開校に向けた具体的な進め方も分かった。
<ul style="list-style-type: none">・総合技術高校として9年経過する中で農、商、工の3学科を設けている状況がある程度理解できた。長野千曲総合技術新校も工業科の取入れが必要と感じた。限られた時間での講演であったため引き続き須坂創成高校としてのメリット、デメリットについてお聞きしたい。
<ul style="list-style-type: none">・作る（農業）と売る（商業）。違う知識を持つ者が集まるのが総合技術高校の最大のメリット 生産から流通までマネジメント。・地域のささえが必要。・ワンキャンパスが理想的に思えた。
<ul style="list-style-type: none">・ワンキャンパスの良さが理解できました。・須坂創成高等学校の先生の熱い思いが伝わってきました。長野千曲の新校でも、取り入れられる部分は取り入れて欲しい。各学科相互乗り入れて、経験の幅を広げられるのは、とても良いと思いました。

<ul style="list-style-type: none"> ・学校連携は確かに、大変なメリットだなと思いました。お互いの長所を活かせることが、まさに強みですね。 ・いろいろな資格を自校で学べるのが、高校生にとってとてもいいことだと思います。生徒の幅を広げることができると思います。 ・地域企業との連携が生徒の地元愛を育てているのだなと感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がワクワクする学校になっている様子がわかった。 ・生徒の学びが横断的になっている。それを職員が支えている点がとてもよい。 ・総合技術高校になることのメリットは大切と感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・須坂創成高等学校の歴史や3学科合同する利点を知ることができ、納得しながらきくことができました。 ・専門学科が互いに理解し補うことで学んだり経験したりしてもいいなと思いました。

2 生徒による各校の学校・学びの紹介を聞いてのご感想

<ul style="list-style-type: none"> ・各校すべて地域と深く関わっており、切り離してしまうことは相当困難である。 ・ライフデザイン科は技術を学ぶとはいえ、芸術・文化的な要素が強く、実際独自の発展をしている。農業・商業・工業と学科連携しにくいのではないかな。 ・商業科と普通科の違いがさほど感じられなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・3校の実践発表は、生徒自らの課題を探究的に学習していく上で、地域との連携をとっても大事にした取り組みであった。地域を学び地域から学ぶ姿勢は、体験から学ぶことが多く、必ず生徒の力になるので、今後も継続して取り組んでほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの高校とも、素晴らしい発表をしていました。それぞれの学校の特色ある活動について、わかりやすく説明していました。今回の発表を、中学生の体験入学の折にも実施して、学校の魅力をアピールしてほしいと思います。 ・3校の活動には、それぞれ特徴がありました。この3つの学校が統合することにより、それらの活動がどんな融合を図るのか、どんな進化をするのか、楽しみです。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との繋がりを考えた活動、教育が実施されている。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちによる自分たちの学校と学びについての一生懸命な発表はそれぞれに素敵でした。同時に各校について知る良い機会となりました。ありがとうございました。 ・総合技術新校が生徒たちの成長にとって従来以上に相応しいものになってほしいとの想いを新たにしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校が専門的な学びに取り組んでいる様子が分かりました。 ・松代高校、屋代南高校の地域とのかかわりについて、とても興味深きものがありました。
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての高校発表を通じて、共通点は「探究」にあるとわかりました。新校では地域密着型の「探究」的な学びに重視して、学科を越えた生徒間での主体的な学び合いができること、そのなかで自らの専門性を高められることが生徒たちのニーズにあるのではないかと実感しました。どの高校も情報発信が不足しており、せっかくの良さが地域に知られていないのではないかと危惧しました。これからの時代、情報発信のあり方を考える必要があります。新校においては情報発信に力を入れた活動、教育活動が行えるとよいのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・更級農業高等学校 高校段階から積極的に生産活動に力を入れており、実生活・実経済に基づく学びがなされていて関心しました。8コースの多様な学びが分野間の学びに相互作用しており、実践的で主体的な学びを構成していることがわかりました。生徒たちの声から、それぞれの学習活動を通じて、どのような学びがあったのか、その学びを通じて自分たちの将来にどのような影響を果たしているのかを話してもらえるとなおよかったと思いました。また、探究学習ではどのような活動を行い、自分たちの感じる課題に取り組んでいるのか紹介があると特徴が表れると思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・松代高等学校 地域交流を大事にし地域に根差した学校風土ができていたのを感じました。高校生だからこそのアイデアを活かして、地域にある学校としての機能を果たしていることがわかりました。生徒の声から学校を通じて学び得たこと、自分のキャリア形成に大きな影響を与えていることがわかり、地元密着型の高校としてのあり方を学ぶことができました。番外編が、意外なところで企業や自治体とのコラボレーションがみられておもしろかったです。もっと宣伝しましょう！
<ul style="list-style-type: none"> ・屋代南高等学校 伝統的な取り組みの深さに興味を持ちました。「被服」という観点から大学や企業、地域など多様に交流を持っており、高校での学びを通じた専門性の高さを感じることができました。また「食品」においても様々なイベントを通して自分の特長を表現し、即戦力となる技術力や自信を持つことができている、高校生とは思えないレベルの高さに驚かされました。

<ul style="list-style-type: none"> ・更級農業は資格取得や即戦力を目指して学んでいる点が強調され、生徒の目的がはっきりしていると感じた。色々コースがあり選択の幅が大きいことも強みと感じた。 ・松代高校は地域の高校という生徒の認識が強いと感じた。これは松代地域の方の想いでもあると感じる。反面、地区外から通っている生徒が多いことが意外であった。 ・屋代南高校は大学進学希望者の受け皿として27名以下の学級で構成されていることに驚いた。丁寧に指導が行き届いていると感じる。発表活動もあみずホールで行っている点は特徴的である。被服科は地域とともにある学校と感じた。地域産業にも大いに貢献している（以上、どの学校も生徒は自身の学校に誇りと愛着を持っていると感じた。）
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の視点で、それぞれの3校の様子が分かり、ありがたく思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・各校の特性ある取組が理解できた。生徒の頑張っている様子もわかりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ3校の職業科の取組状況がある程度理解できた。農業科は、自然と接し作物の収穫に喜びを感じる事が生徒にとって励みになっている様子が伺えた。
<ul style="list-style-type: none"> ・どの校も地域に根付いた学びをしている。全ての科が残せば良いと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・各校、地域との交流、協働して連携している姿があり、それぞれの学校が地域と密接した関係が構築されていてとても良いと思いました。それぞれの学校の持ち味を残した新校ができると良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・更農：4つの科の中にたくさんのコースがあり、様々な知識・技術を高いレベルで学んでいるんだと感じました。先端技術を学んでいるシーンもあり、「すごい」と感じました。 ・松代：ネットによる店舗紹介が高校のHPから見るができる。素敵です。自分も見たいと思いました。松高カレーDX おいしかったです。地元と密着していて地域も元気になりますね。 ・屋南：ライフデザインコースは地域の企業やアパレルメーカーなど、外部とつながっていることが素敵ですね。フードデザインコースは、コンテストに挑戦し、外部の評価をうけ入れ技術を高めている すごいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介によって、生徒の自分達の学びへの意味づけがなされることを感じた。 ・学校のカリキュラムで学ぶ、地域から学ぶ姿がわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり他の学校について知る機会や関わりがなかったので学科の特徴を聞くことができている機会でした。 ・学校によっていいところや違うところがあり、学ぶことができました。

3 新校で育てたい生徒、新校の学校像などについてお答えください。

<ul style="list-style-type: none"> ・総合技術高校なら工業科必須。工業がなければ不十分だと思う。 ・ライフデザイン科の学びをどう考えるか。 ・福祉やデジタルなど新たな学びをどうするか。
<ul style="list-style-type: none"> ・3校の特色ある学びは、新校でも引き続き取り入れ、更に深く専門的な学びになることを期待する。 ・これからは、どの学科でも情報を駆使した教育課程が編成されることを期待する。 ・屋代南高は、交通の便が極めてよいので、家庭科と新たな学科（例えば福祉科）を新設することにより、広範囲に多くの生徒の学びの場として新たな展開が期待できる。2キャンパスでも十分やっていけるのではないか。リモートも活用しながら、新校と一体となった特色ある高校になる。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学科を要する総合技術新校において、生徒の希望する多様な学びに対して、対応できることが大きな魅力となります。普通科ではなかなか対応できないことにも、チャレンジしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・進歩、変化が激しい現在の動向をきちんと生徒に伝え、ある程度の国際的、先進的な物の見方ができる専門分野の基礎能力を持った人材。更に次のステップで、その能力を高めようとする人材。
<ul style="list-style-type: none"> ・新校の学校像を考える上で、まず現状の把握のために下記の2点について情報の提供をお願いいたします。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 更級農業高校、松代高校、屋代南高校の専門学科(普通科以外)の生徒の内で専門学科の延長線上の上級学校に進学した、あるいは関連職種に就職をした人数と対象学科全体の生徒数を過去数年間のデータとして教えてください。 2) 既に総合技術高校となった学校の統合前と統合後のそれぞれの学科で取得できる代表的な資格の取得率の変化を知りたいと思います。統合前後での下記の情報を教えてください。 対象生徒数/対象資格(複数希望)/受験生徒数/合格者数 また統合前後で生徒の取得資格や進学・就職先から無くなったり新規に加わったものがあれば併せてお教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・新校で学び、将来はこの地域に戻り就職し、各企業の戦力となるような生徒が育つと良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台情報端末とクラウドを活用した個別最適な学び ・先端テクノロジーとSTEAM教育の理念に基づいた協働的で共創的な学び ・生徒とともに教師が育つ学校、教師の専門性を活かした教育課程の開発
<ul style="list-style-type: none"> ・旧第4通学区を代表する高校になってほしい。地域に歓迎され、愛され、生徒の夢の実現に貢献できる学校。 ・高校は社会に出るに当たっての様々な学びができる場所であり、貴重な経験と思考が前向きにできる場所であってほしい。 ・長野県の産業・地域を支えとともに自身の幸せを追求できる生徒の育成を願っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携が大切である。各校が今から連携して子供たちのための新校を開校するよう努力していくことが重要であります。
<ul style="list-style-type: none"> ・総合技術新校として農、商、ライフデザインと合わせて工業科も取り入れてお互い連携が出来る授業体制が必要と思う。大学、専門学校に進学しなくても新校で学んだことが即、実社会で通用することのできる体制づくりの魅力がアピールできれば入学してくる生徒の目標になると思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、地元に戻れる生徒を育てたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者としては、これから先の将来、AI の技術では成し遂げられない、人間力が学べる学校をつくって欲しいですし、人と人が繋がる事の大切さも重視し、コミュニケーション能力、自分で考えて動ける人間を保護者と一緒に育てていける学校にして欲しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・専門性+αの学校にしてほしいと思いました。様々な科のある高校です。たとえば、農業専門+（商業の知識や工業の知識も少しある） 生徒の幅を広げることができる学校を希望します。 ・地域企業との関係を強め、地域企業への就職に強い学校（生徒がこの地域に残ってくれる、または帰ってきてくれる学校）になると素敵ですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら探究的な学びを進め、自らが進路実現に向かう、自立していく生徒 ・教員が横断的に関わる学校 ・地域・企業がささえる学校
<ul style="list-style-type: none"> ・充実した高校生活を送り、楽しんでほしいと思いました。

4 その他

<ul style="list-style-type: none"> ・農業、商業、ライフデザインを単純に合体させて一校・一校地にすることには無理がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から、どんな学びをしたいかを十分吸い上げ、カリキュラムに生かしてほしい。 ・懇話会では、是非意見交換の時間を確保していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・羽山校長先生は、キャンパスのあり方については、一つのキャンパスであることのメリットを強調していました。2つのキャンパスで学習をしている佐久平総合技術高校の先生からもメリットとデメリットをお聞きすることも必要ではないでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ・Google フォームの URL は、編集>共有リンクから短縮 URL を複製いただけると幸いです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ご講演に時間の制限があればよろしかったです。 ・発表会とは申せ、委員 30 余名を招集されているので、意見交換等を通して、新校に対する要望・提案等をその都度汲みあげていかれる基本姿勢を期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを希望します。

【回答】

○先行3校（須坂創成高等学校、佐久平総合技術高校、飯田OIDE長姫高校）について

- ・先行総合技術高校の統合前後のそれぞれの学科で取得できる代表的な資格の取得率の変化について

（先行3校への聞き取り）

- ・それぞれの専門学科の学びと結びついている資格が多く、統合前後で変化はない。

- ・先行総合技術高校の統合前後での取得資格や進学・就職先から無くなったり、新規に加わったりしたものはあるか

（先行3校への聞き取り）

- ・統合前後での変化はない。

- ・先行総合技術高校が統合されたことにより、自分たちの学びにどのような影響があったのか（単科ではないからこそ、どのようなメリットがあったのか）

（先行3校への聞き取り）

- ・単科だけでは、学ぶことができない分野を学ぶことができる。
- ・お互いの科の学びをすることで、教員を含め在籍する専門科の学びが深まる。
- ・他科の異なった視点での発想をより理解することができ、新たに気づきが生まれる。
- ・学校にいながらにして、他科の専門的な学びに触れることができる。

・ 2つのキャンパスで学習をしている佐久平総合技術高校のメリットとデメリットを聞きたい

(佐久平総合技術高校への聞き取り)

- ・ 浅間キャンパスに農業科、工業科の専門科（学年制）を設置しているが、臼田キャンパスの創造実践科は総合学科（単位制）である。学びの仕組み自体が異なるが、建設機械等の資格取得は合同で実施している。
- ・ 部活動は一緒に行っている。学校が所在している最寄りまでの定期券しか購入できないため、移動は学校でバスを用意している（保護者負担）。部活動での移動等、生徒にとっては、2キャンパスはメリットを感じていない。
- ・ それぞれで学校生活を送っていることに寂しさを感じている生徒もいる。コロナ禍を境として、合同の学校行事が激減し、別の学校として捉えている生徒もいる。

○ 総合学科と総合技術高校の違いについて

- ・ 総合学科は「産業社会と人間」及び専門教科・科目を合わせて25単位以上設けており、各専門学科に跨るような科目選択も可能であるが、必ずしも専門科目を選択する必要はなく、生徒の進路実現や興味・関心をもとに科目選択を行っている。
- ・ 総合技術高校は、学科の枠を越えた連携や、所属学科以外の専門科目を学ぶことができるが、所属学科での学びをベースとして所属学科の専門科目25単位以上の修得が必要である。
- ・ したがって、総合学科高校は専門性を深めるための科目選択は可能であるものの自由な科目選択を行っているのに対して、総合技術高校は他学科の基礎的な科目や学科横断的な学びができる等、学科を連携させた教育活動を展開しているものの所属学科の専門性を確保しているところに違いがある。

総合技術高校：須坂創成高校 佐久平総合技術高校 飯田OIDE長姫高校

総合学科高校：中野立志館高校 市立長野高校 丸子修学館高校

佐久平総合技術高校（創造実践科） 塩尻志学館高校 蘇南高校

○ 3校（更農、松代、屋南）の学校・学びについて

・ 3校専門科の延長線上にある上級学校への進学と就職の状況

→別紙（次項）「各校の進路状況」

○ 懇話会での意見交換の方法等について

・ 生徒からの吸い上げ

- ・ 旧第4通学区内の小学生保護者や中学生とその保護者等へのアンケート実施について、懇話会でもご意見をうかがいながら検討していきたい。

・ 引き続き須坂創成高校としてのメリット、デメリットを聞きたい

- ・ 必要に応じて、羽山校長に懇話会に参加いただく。

・ 意見交換等を通して、新校に対する要望・提案等をその都度汲みあげていかれる基本姿勢

・ 意見交換の時間を確保

・ グループワークを希望

- ・ 第1～3回懇話会は、高校再編、総合技術高校、各校の学びについて共通理解を深める場とさせていただいた。
- ・ 第4回懇話会からグループ討議にて構成員の皆様全員からご意見を伺い、学びのイメージをまとめていきたいと考えている。今後の進め方についても、引き続き皆様のご意見をうかがいたい。

各校の進路状況

○更級農業高校農業科

卒業年度		R5	R4	R3	R2	R1
卒業生徒数		132	152	142	141	149
大学	専門科目の学習を生かした進学者数	5	3	3	2	2
	上記のうち就農を目的とした進学	0	0	0	0	0
	上記以外	4	10	8	4	4
短大	専門科目の学習を生かした進学者数	0	2	0	0	1
	上記のうち就農を目的とした進学	0	2	0	0	0
	上記以外	9	6	6	9	5
専門学校	専門科目の学習を生かした進学者数	9	6	5	1	0
	上記のうち就農を目的とした進学	1	1	0	0	0
	上記以外	31	31	44	32	50
長野県農業大学校		3	7	4	2	2
就職	就農者 (①②)	0	2	0	2	3
	農業関連就職者 (④⑤⑥⑦⑧⑩)	11	16	14	25	20
	上記以外 (③⑨⑪⑫⑬)	59	65	58	63	62
その他 (アルバイト・家居等)		1	4	0	1	0
就職内訳 職種	①専業農家	0	0	0	1	0
	②農業生産法人等	0	2	0	1	3
	③公務員	3	1	3	0	1
	④農協	0	3	1	4	0
	⑤森林組合等	0	0	0	1	1
	⑥食品製造等	11	13	13	18	19
	⑦バイテク関連	0	0	0	0	0
	⑧林産物加工等	0	0	0	0	0
	⑨建設関係	5	0	14	10	0
	⑩造園関係	0	0	0	2	0
	⑪生活福祉関連	0	1	3	4	2
	⑫その他農業関連	1	0	0	2	0
	⑬上記以外	50	63	38	47	59

○松代高校商業科

卒業年度		R5	R4	R3	R2	R1
卒業生徒数		41	62	83	87	107
大学	商業系	2	1	4	11	8
	商業系以外	1	0	2	2	0
短大	商業系	1	2	2	7	1
	商業系以外	2	3	7	1	7
専門学校	商業系	12	8	16	6	15
	商業系以外	11	15	13	18	16
就職	商業系	8	12	9	11	10
	商業系以外	4	21	30	31	50
その他（アルバイト・家居等）		0	0	0	0	0

○屋代南高校ライフデザイン科

卒業年度		R5	R4	R3	R2	R1
卒業生徒数		25	33	35	36	33
大学	服飾系	0	0	0	0	0
	食物系	0	0	0	1	1
	上記以外	0	1	2	2	0
短大	服飾系	0	0	0	0	0
	食物系	0	2	1	2	0
	上記以外	1	2	0	2	0
専門学校	服飾系	1	1	6	4	6
	食物系	7	4	4	3	11
	上記以外	10	10	8	7	7
就職	服飾系	1	1	1	0	0
	食物系	1	4	2	0	0
	上記以外	4	6	7	11	8
その他（アルバイト・家居等）		0	2	4	4	0

講師紹介

1. 職・氏名

国立大学法人 鳴門教育大学
教員養成DX推進機構長
大学院学校教育研究科特命教授
ふじむら ゆういち
藤 村 裕 一



2. 略歴・主な役職・活動等

公立学校教員，行政職，東京工業大学大学院社会理工学研究科内地研究員等を経て現職。

首相官邸の「教育再生実行会議」初等中等教育WG委員，「デジタル化タスクフォース」委員として，今後の日本の教育改革の在り方について大所高所から検討を進め，多い時は月2，3回ペースで文部科学大臣らと今後の教育の在り方について協議してきた。

高校教育関係では，広島県の依頼で全寮制グローバルリーダー育成県立中等教育学校「広島叡智学園」の設立や，札幌旭丘高校の単位制高校化，宮崎県の専門高校改革・学科間連携の助言，岡山県立高校・名古屋市立高校の次世代型教育の助言，・各県のスーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールの助言等をしてきた。

文部科学省では，「中央教育審議会デジタル学習基盤特別委員会」や「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」企画評価会議委員や「就学援助事務システム標準化検討委員会座長，教育DXを検討する「教育データの利活用に関する有識者会議」座長代理など，文部科学省・総務省・経済産業省・デジタル庁・特許庁・NHK等で数多くの教育の改革・教育の情報化関連委員会で，数多くの座長・座長代理・委員を務めている。

自身体においては，北海道から沖縄県まで全国各地の都道府県教育委員会・市町村教育委員会の教育改革，教育振興基本計画の策定，教育の情報化・情報教育，授業改善・教育改革，生徒指導改善等の助言に入っている。学力日本一の秋田県の教育改革，いわゆる学力向上マニュアル改訂の助言に2024年度も20回入ることになっている。

身近なところでは，NHKの朝のニュース「おはよう日本」でニュース解説を行ったり，民放のバラエティ番組に出演したりもしている。

「長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」のスケジュール

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会・校地検討会議	内 容
令和5年度 (2023年度)	1月11日	第1回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○「県教委より説明」 ・実施方針、三次の説明
令和6年度 (2024年度)	4月25日	第2回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像（ビジョンの共有） ・総合技術高校について羽山須坂創成高校長による講演 ・3校生徒による学校・学びの紹介
	6月10日	第3回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像（ビジョンの共有） ・鳴門教育大学 藤村裕一教授による講演
	8月 (予定)	第4回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像 ・グループ討議（予定）
	1～2ヶ月に 1回開催予定	以降は、進捗状況に応じて開催予定	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜意見交換項目＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校像、新校の学び ○設置課程 ○活用する校地・校舎 ○募集開始年度 ○募集学級数 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 再編実施基本計画を教育委員会定例会で決定 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #fff9c4;"> 統合について県議会で同意 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #0070c0; color: white;"> ※議会同意後、学校運営、校名・校歌・校章、地域協働等の細部にわたる具体的な検討を進める。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 新校開校まで随時（3～4回／年）程度開催 </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px; text-align: center; background-color: #0070c0; color: white; font-weight: bold; font-size: 1.2em;"> 新校開校 </div>
	学校像がある程度見えてきたところで校地会議を開催		